

## 小学生マンションドクター養成塾

～ステージ1 マンションの秘密を探れ！～

### ■初めての子ども向け講座

機構の30年強の歴史で初めて小学生向けの講座を、2月7日（日）、京都市のこどもみらい館にて開催しました。共催は、京（みやこ）安心すまいセンターで、「京都市安心すまいまちづくり推進事業」の一環である「すまいスクール」の一講座として実施しました。

その名も「小学生マンションドクター養成塾」。小学生が分譲マンションの「すまい」や「すまい方」に関して興味を持ち、今回のステージ1では、共用部分と専有部分の違いを知ってもらうことが大きな目的です。59人（うち子ども27人）の参加があり、クイズや設備模型体験、工作など、とても盛りだくさんでにぎやかな講座となりました。

今まで数多くの大人向け講座を行ってきたスタッフですが、今回は小学生の子どもたち。講座開始の30分前から続々と会場に来られる参加者に、いつもとは違う緊張感が走ります。



はたしてどうなることやら……

### ■まずは入門編

いよいよスタート。まず、ウォーミングアップで、簡単なクイズから。ほんまもんのマンションドクターからの出題で、配布されたマンション内施設の写真を見て、“みんなで使う場所”か“家族で使う場所”かを答えます。2本の手作りの旗を上げて回答しました。全員正解！「簡単や～！」子どもたちに安堵の表情が広がります。ここで、ひとつ目の講義。3つの「マンションのきまり」のお話が始まります。

- ① 『家族のもの』を専有部分、『みんなのもの』を共用部分と言います。

- ② 『共用部分』が壊れると、みんなでお金を出しあって直します
- ③ みんなで壊れたところを直せるように、『共用部分』が、どこなのかをわかるようにしています。  
・・・なるほど！

### ■続いてチャレンジ編

次はレベルUPしたクイズに挑戦し、今度は先ほど勉強した「共用部分」と「専有部分」の旗で回答しました。今回講座の小道具の一押しが、実はこの回答フラッグ。入門編では「みんなで使う」「家族で使う」の旗でしたが、この旗をビリビリ脱皮させると「共用部分」と「専有部分」の旗に進化する優れもの。（自画自賛）



このクイズは、1問ずつ解説を加えながら答え合わせを行い、理解を深めてもらいました。

### ■「マンションドクター」ってなんだ？

続いて、今日の講座のタイトルにもある「マンションドクター」の仕事についてのお話。

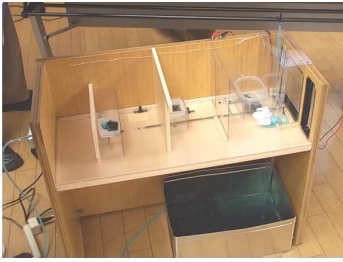
『共用部分』が傷んだり、困ったことがないかを調べ、どのようにして直したらよいかを考え、知恵を出し、直す工事をするときには、その工事が正しくできているかを検査したりする専門家で、住んでいるみなさんを助けるお仕事なんです。

ちょっと難しいかな・・・？

### ■設備模型登場！

ここからは心機一転。前半のお話中心のプログラムから、体験や工作のプログラムに。まず、給水、排水、

配電（照明をつける）のしくみが確認できる模型が登場し、給水ポンプが水をくみ上げ、各戸のキッチンやトイレに水が届き、排水されていく様子や、発電のしくみの解説のあと、子どもたちも発電にチャレンジ。休憩時間に入っても、模型の周りは子どもたちでいっぱい。とても興味深そうに模型を触っていました。



### ■いよいよお待ちかね！工作の時間

休憩のあとは工作の始まり。子どもたち一人ひとりがあったらいいなと思うマンションをいろいろな形で表現しました。

まずは工作の参考になるよう、ユニテ・ダビタシオンなど独特なデザインのマンションを映像で紹介しました。そして工作に突入。配置図の印刷された用紙と台紙に、会場の真ん中の机に準備されたカラーペン、間取りパーツ、粘土、毛糸、折り紙、タイルなどのいろいろな素材を用いてマイマンションを作ります。プールや図書室のあるマンション、配管がしっかり見える模型、遊具のたくさんある広場や、コンビニがあるマンションなど十人十色の模型が出来上がりました。

実は、予定では、完成した模型をひとりずつ発表して、マイマンション自慢をしてもらおうことにしていたのですが、子どもたちの制作意欲の大きさに圧倒され、時間いっぱいまで模型の制作に充てました。



最後に、大阪教育大学の確田教授による講評を頂きました。「本日勉強した内容は、高校生の教科書に出てくる内容で小学生にとっては難しかったと思いますが、みんなよくがんばりました。これを理解してもらうために試行錯誤した結果が本日の内容となっています。本日はステージ1です。続編にも期待したい

です。今日完成しなかった子は材料を持って帰って家で続きをやるといいでしょう」

その後、子どもたちとマンションドクターで記念写真を撮影。後日郵送させていただきました。



帰りに子どもたちには、修了証となるステージ 1 の缶バッジをプレゼント。子どもたちの満げな顔が、機構スタッフへの何よりのプレゼントでした。

### ■参加者した保護者の感想より

- ・みなさんとても優しく接してくださって子どもも楽しく過ごせたと思います
- ・パイプに興味を持ったのが意外だった

### ■子どもたちからの手紙より

- ・建築家になりたいのでおもしろかった
- ・問題が簡単だった
- ・ステージ2も行きたいけど、お話は短くしてね

### ■子どもたちへの『住教育』の取り組み

衣食住のうち、住に関する『住教育』は、とても身近な、日々の生活で当たり前にある住まいについての学習ですが、その重要性は語られるものの、学校ではなかなか扱い辛く、家庭科の一部で住環境などが取り上げられている程度のような「集まって住む」マンションでの共用部分の学習になると、先生方が詳しく教えることは難しく、われわれ専門家が知恵を絞って子どもたちにアプローチする必要性を強く感じました。子どものころからパブリックな感覚を身に着けることは、将来においても大切なことであり、それを学ぶにはとてもいい題材であると思います。また、工作を楽しく行う子どもたちをみて、住教育で使える教材作りができないかな？なんてこともふと思いました。

(専門委員 原多摩樹)